

2008年度後期共生塾 ～「生きる」を問う～ を開催！

I 2月7日(土)「生きているということ」

講師 小室等氏(歌手)+高橋卓志氏 (龍谷大学社会学部 客員教授)
長野県神宮寺 住職

大きなテーマを掲げて開講した2008後期(第四回)共生塾。講師は高橋卓志さん、小室等さん、田畑正久さん、鍋島直樹さんにお願ひしました。

初日は、高橋さんが次々と映し出す映像を目にやきつけながら、いま、私たちがどういう時代に生きているのか、私たちにつながる「いのち」がどう扱われているのかを問うことから始まりました。生きることは死ぬことにつながるからこそ、死から生きることを考えてみようという高橋さんの言葉にハッとしたり、私たちの「いのち」が過去にも未来にもつながるものであるという当たり前のことにひどく心を打たれたりした講座であったと思います。後半は小室さんの語りと歌から始まりました。小室さんの「生きる」につながる歌は、その声の清らかさと深い響きとあいまって、私たちの感性を鋭く揺さぶりました。ある時にはゆったりとした調べに身をゆだね、またある時にはその歌詞のもつ意味の深さに引き込まれました。煩雑な日常生活の中で、立ち止まって「生きる」を考えてみる、自分の「いのち」の行く末や他者との関わりをじっくり思いめぐらすことのできた三時間でした。



受講生の感想

- ・いのちについて、こんなに真剣に考えた事がうれしいです。
- ・自分自身を見つめ直すいい時間でした。小室さんの頑張らなくていいよという言葉が心に残りました。

II 2月28日(土)「老・病・死の現場から－生きるを問う」

講師 田畑正久氏(佐藤第二病院院長)

二日目は医療分野から生死に直接むかいあっておられる田畑さんに「老・病・死の現場から～生きるを問う」と題して、お話をいただきました。田畑さんは、「生老病死というのは自然な過程であるにもかかわらず、生と老病死が分断されているのが現在。分断して生きることにはしがみついている」との指摘からお話が始まりました。そして「老病死をなくしてしまうと、生きることに意味が見いだせない。生きることと老病死は不可分のものであるから、生きることは老病死を受容すること」とまとめられました。常日頃、私たちは多くの不安をかかえ、それをうち消すことにやっきになっています。年をとることへの不安、病への不安、そして死ぬことへの不安……田畑さんから、それは自然ないのちの過程であるからおそれることはない、と教えていただきました。そして、おそれを受容し、乗り越えるために、仏教の教えから学ぶことが大きいことを改めて確認した講義でした。



受講生の感想

- ・医療者から仏教の話が聞けて大変良かったです。
- ・老・病・死を迎えるに当たっての心がまえについて大変参考になりました。

III 3月7日(土)「慈しみとつながりの時代－生きる力を求めて」

講師 鍋島直樹(龍谷大学法学部教授)

最終日は、本学教授の鍋島さんから「慈しみとつながりの時代－生きる力を求めて」と題するお話をいただきました。鍋島さんは、人間のより深い価値、生きる意味を明らかにするために、現実世界の「苦」を見据え、そこからあるべき幸福を探究したいと、本講座の意図について話されました。お話の中では、とくに仏教的愛、そして仏教における智慧と慈悲について、やさしく丁寧にひもといいただきました。攻撃的で競争的な現代社会において、あらゆるものが支え合って生かされているという相互関係性、相互依存性をうけとめることで、他者への慈しみが生まれるのであり、そのことであらゆる「いのち」の安穩を願うことができることを学びました。最後に紹介された中村久子女史の人生は、私たちには現実を引き受ける以外に苦難を乗り越える道はなく、乗り越えるためには自分と他者がどうつながっているのかに目覚めることが重要であることを示していると感じました。



受講生の感想

- ・時代に生きる力、心をもつことの意義と内容について深い感銘をいただくことができたよい講座でした。
- ・日常生活から離れて、心安らぐひとときを持つことができました。

第5回共生塾開催のご案内

テーマ:輝け生命、孤立からのネットワーク

場所 龍谷大学瀬田キャンパス 4号館201教室 定員 各回50名

老人医療・乳幼児医療の無料化を全国に先駆けて実施した旧・沢内村(現・西和賀町)で生命がきらきら輝くまちづくりが「NPO法人・輝け「いのち」ネットワーク」を中心に展開されています。

映画「いのちの作法」は沢内を舞台にして生命のぬくもりを伝える作品です。その生命が揺らぎ、そと全国から消える数が毎年3万人を超えています。初めて「NPO法人・ライフリンク」によって「自殺実態1000人調査」が企画・実施され、発表されています。

自殺は新たな社会問題であり、予防できます。生命の尊さを地域特性を踏まえて守っていく取り組みから学ぶものは何か。生命を守る企画を考えています。

2009年6月27日(土) 13:30~16:30 第1講 13:30~15:00 第2講 15:00~16:30

「生命を守る地域づくり」 講師 高橋典成氏(特定非営利活動法人 輝け「いのち」ネットワーク代表)

[オプション] 10:30~12:20 映画「いのちの作法—沢内『生命行政』を継ぐ者たち」を上映(入場無料・参加自由)

[参加費] 福祉フォーラム会員・REC会員 2,000円 一般 2,500円 龍谷大学学生 2,000円

2009年7月4日(土) 13:30~16:30 第3講 13:30~15:00 第4講 15:00~16:30

「自殺の実態と予防の課題」 講師 山口和浩氏(特定非営利活動法人 自死遺族支援ネットワーク代表)

[参加費] 福祉フォーラム会員・REC会員 2,000円 一般 2,500円 龍谷大学学生 2,000円

第3回専門セミナー開催のご案内

テーマ:成人期を見通した学童保育専門職のしごと

場所 龍谷大学瀬田キャンパスRECホール内1F小ホール 定員 各回50名

昨年度に引き続き、「成人期を見通した学童保育専門職のしごと」をテーマに専門セミナーを開催します。学童を利用する子どもは発達の大きな節目を迎える最中にいます。学童保育指導員が子どもの発達をしっかりと学び、成人期を見通して専門的なかかわりをしっかりとしていくことが求められているといえるでしょう。

今回は、子どもの発達や特別な支援の必要な子どもへのかかわり、そして学童保育の重要性を子育てを支えるという点から講義をしていただきます。どうぞ、ふるってご参加ください。

2009年6月21日(日) 講師 白石正久(龍谷大学教授)

I

第1講 13:30~15:00 「『困った子』の本当の願い~発達の障害にも視野を広げて」

第2講 15:10~16:40 「『困った子』のことを話し合いながら、支援を考えよう~質問と交流のコーナー」

[参加費] 福祉フォーラム会員・REC会員 2,000円 一般 3,000円

2009年7月5日(日) 講師 川地亜弥子氏(大阪電気通信大学准教授)

II

第3講 13:30~15:00 「学童期の生活・遊び・学力~9・10歳の壁に焦点をあてて」(その1)

第4講 15:10~16:40 「学童期の生活・遊び・学力~9・10歳の壁に焦点をあてて」(その2)

[参加費] 福祉フォーラム会員・REC会員 2,000円 一般 3,000円

2009年7月19日(日) 講師 池添 素氏(らく相談室主宰)

III

第5講 13:30~15:00 「働きながらの子育てを支える学童保育の役割と課題~子どもと大人の集団づくりを考える~」(その1)

第6講 15:10~16:40 「働きながらの子育てを支える学童保育の役割と課題~子どもと大人の集団づくりを考える~」(その2)

[参加費] 福祉フォーラム会員・REC会員 2,000円 一般 3,000円

お問い合わせ

龍谷大学福祉フォーラム事務局(REC滋賀)

〒520-2194 滋賀県大津市瀬田大江町横谷1-5

TEL/077-543-7744 FAX/077-543-7771

E-mail/r-fukushi@ad.ryukoku.ac.jp

ホームページ/http://rec.seta.ryukoku.ac.jp/fukushi/



電車 バス



お車

JR琵琶湖線「瀬田」駅下車
帝産バス「龍谷大学」行き(約10分)

名神高速「瀬田西IC」(大阪方面から)
「瀬田東IC」(名古屋方面から)より
文化ゾーン方向へ車で約5分【駐車場有】



龍谷大学瀬田キャンパス
バス約10分

